



第 418 回 2/7(火)

「UME UI Michihiro (うみいゆうあい)」  
代表 Michihiro さん

音楽活動のキャリア 18 年余りという UME UI Michihiro さん、活動を始めた頃からコピーではなくオリジナルの楽曲制作を手掛けていたそうです。「UME UI」の由来は英語の「You & I」から着想を得たもので、あなた⇄私の相互理解から始まるコミュニケーションを大切にしたいという Michihiro さんの想いが込められています。現在は楽曲制作から PV 制作、YouTube の動画公開まで幅広く手掛けています。今後はコロナ禍で中断していた施設のボランティア訪問を再開したいとのこと、人との出会いを広げていきたいと語りました。

次回のお出演 420 回 3/7 (火)「大和総合体操クラブ」  
421 回 3/21 (火)「サークルありんこ」

FM やまと 77.7MHz 第 1.3.5(火) 生放送 9:00 ~ 10:00  
同日再放送 15:00~16:00



第 419 回 2/21 (火) 「大和たんぼぼの会」  
代表 石川 克子さん 会員 鈴木 由美子さん

現代の子育て事情を案じ、子どもと保護者の支援として「子育てほっとサロン たんぼぼ」を 2016 年に発足しサロンスタッフ 10 名を含む会員 38 名で活動しています。南林間の大和カトリック教会の敷地内にあるパレエ教室にて子育て中の保護者と乳幼児、プレママ、じいじ・ばあばと幅広い年齢層を対象に毎月第 1・3 月曜日午後 1 時~4 時に開催しています。広いスペースにはおもちゃや絵本が用意され安全に遊べるように常にスタッフが見守る中で保育が行われ、また、子どもだけでなく保護者にもゆとりを持って育児ができるよう一息つけるリフレッシュタイムが用意されているサロンです。

第 3 回「たんぼぼ音楽会」  
3月30日(木) 14:30~15:30 (開場 14:00)  
大和文化創造拠点シリウス やまと芸術文化ホールサブホール  
詳しくは <https://kyodounokyoten.com/pdf/2022/0558.pdf>  
問合せ・申込み 046-274-6662 (石川さん)



TSUBASA's トーク 第 17 回 「緑のふるさと協力隊 活動報告会」

① お礼を伝える場になるように

1 年間の任期で 2022 年 4 月から続けてきた「緑のふるさと協力隊」もこの 3 月で一区切りです。未知の世界であった岩手県一関市に派遣され、全くの素人だった農業や地域行事の手伝い、農村村体験の受け入れ、情報発信を続けてきました。こうした活動を 1 年間続けてこられたのは、地域の方々の支えがあったからです。

お世話になった方々にお礼を伝える場になればと思い、2 月末、市民センター(公民館)の体育館で活動報告会を開きました。報告会では 1 年間の体験をプレゼン形式で発表し、岩手県南の郷土芸能「鶏舞(とりまい)」を披露しました。

報告会の日には雪が降り、地域行事も重なったのにも関わらず、予想より大勢の方々が来てくださり、その方々を目の前にして口頭発表を始める時から感動していました。



活動報告

② 「周囲に力を尽くせる人になりたい」と思うように

報告した内容を 1 つ紹介します。着任当初、食生活の背景にある農業を体感したいと思っていたので、1 年かけて米や野菜、果樹のお手伝いに行きました。田植えの後に育苗箱を洗ったり、収穫したナスを袋詰めしたりしたこともありました。

こうした手作業を体験して学んだのは、「自分の知らないところで地道な仕事を続け、人のために尽力している人も多い」ということです。協力隊になるまでは自分の関心を満たすことばかり考えていましたが、出会ってきた農家の方々のように「自分も周りの人たちに力を尽くせる人でありたい」と思うようになりました。

ナス箱の組み立て

③ 鶏舞披露

報告の後、休憩の 15 分間で急いで衣装を着付けてもらい、体育館の舞台の上で鶏舞を披露しました。体育館には暖房が効いて人も集まっていたので、舞台は熱気がこもって息苦しく、重い衣装を身につけたまま舞い続けるのは大変でした。

毎週活動の後に鶏舞教室に通い、本番前には自宅で練習もしていたのですが、実は本番、普段ミスをしないうところで間違えてしまいました。舞い終えてすぐ「悔しい」と思いながら礼をしました。

ですが、見に来てくれた方々から今まで浴びたことのない大きさの拍手をされた時に、「練習を続けて、ここの方々に見てもらえて良かった」と感じたのです。披露後、見てくれた方が「素晴らしい発表だった。私の娘が鶏舞を練習して披露したのを思い出して嬉しかった」と声をかけてくれたこともあり、喜びを分けてもらった気分になりました。



鶏舞披露

④ まとめ切れない 1 年間

4 月に、一関に来てから報告会までに撮った写真の数は 10,567 枚でした。発表用のスライドを作るのに、写真を見返すところから始めたのですが、写真選びに時間がかかり、結局まとめ切れずスライドも 100 枚以上になってしまいました。色々な方々とこの 1 年間に築いてきたのだと実感しています。今後は 3 月中旬、全国 13 人の協力隊が東京で集まる総括研修に向けて、より時間をかけて体験を振り返っていききたいと思います。(サポーター 尾畑 翼)



集合写真

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第 188 号 発行日: 2023 年 3 月 10 日

大和市民活動センター <開館日 月~土 9:00~18:00>  
<休館日 12 月 29 日~1 月 3 日・毎月第 3 月曜日>  
〒242-0018 大和市深見西 1-2-17

発行:大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788  
e-mail:yamato@ar.wakwak.com  
<http://www.kyodounokyoten.com/>

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決!

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

第 188 号 2023 年 3 月 10 日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行

3 月号  
2023



ペテルギウス玄閣  
3月4日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC)主催

2022「第 15 回やまと国際アートフェスタ」

入賞作品を毎月掲載しています。

今回のテーマ ~平和・いま私にできること~

バラード賞 成田灯梨さん

林間小学校 3 年生 (日本)

タイトル:「花の力でみんなをえがおに」

メッセージ:「戦争や災害で苦しんでいる子どもたちに、色んな国の花の絵を届けて笑顔になってほしいと思いました。」

「やまと国際アートフェスタ」は「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) \*の主催で毎年催されています。

\*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら「ともにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

大和市民活動センター利用登録団体の  
更新手続きをお願いします

現在、大和市民活動センターに登録している団体で、登録の継続を希望する場合には 2023 年 4 月から 6 月末までの間に登録更新手続きが必要となります。

登録更新手続きにあたっては、4 月号の「あの手この手」に更新申請書を同封いたしますので、ご提出ください。

令和 6 年度から実施する  
協働事業提案などを募集します

▽申し込み: 応募書類を大和市民活動センターに提出

4月1日(土)~4月15日(土)

▽対象: 市と協働で実施し、社会に貢献する非営利の事業(宗教、政治、選挙に関するものを除く)

▽種類は「市民提案型」と「行政提案型」があります。

※公開プレゼンテーションでの発表が必要です。(7 月上旬予定)  
詳細は、3 月下旬以降配布の募集要領をごらんください。

# 第101回 共育セミナー（開催レポート）

## ウィズコロナ、ポストコロナ時代の社会貢献活動

### その5 スローコミュニケーション

#### すべての「伝えたい」が歓迎されるまちへ



受講者のアンケートから ●:アンケート原文  
➡:編集者コメント

●生まれつき耳が聞こえなくて、こんなきれいな日本語に驚きました。自分の思うところに強い意志を持って、非常に困難なことを成し遂げた那須さんからすごく勇気もらいました。(有志者事竟成 中国のことわざ)素晴らしい感動なお話と貴重な体験(ワークショップ)ありがとうございました。大変勉強になりました。

➡那須さんは、本当に「努力の人、不屈の人」と感じました。転機となるような大きな壁が現れてもそれを何度も乗り越えてきている。超プラス思考の方だと感じました。



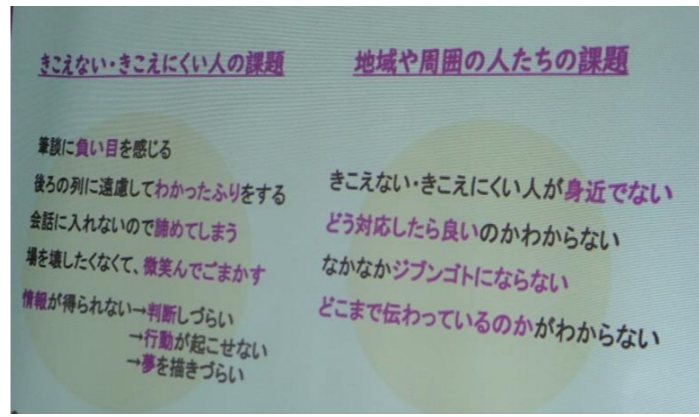
●那須さんが体験してきた苦しみや怒りはわかりきることはむずかしいですが、それを糧としてキラキラ輝いて使命に生きていることはわかりました。すばらしいです。ありがとうございます。



➡4HeartsのVision(私たちの実現したい社会)=情報コミュニケーションから誰一人取り残されない社会。Mission(私たちの役割)=こころでつながる越境コミュニケーションの実現に向けて疾走している那須かおりさん。

一般社団法人4Heartsの「スローコミュニケーションプロジェクト」:相手の立場を想像する「こころのゆとり」があれば、ひととひとの間にあたかなつながりが育まれ、誰もが生きやすいまちになるのではないのでしょうか。まずは目の前の人を大切にすることから、はじめてみませんか？

●私には発達障がいの子がおります。「区別・差別はついてまわる」と言われた事があります。共に生きやすい社会が来るよう私も微力ながら頑張ります。



➡4Heartsには、聴覚障がいの那須さん、手話通訳士の津金さんのほかに、在日の方、難病当事者の方もいらっしやり活動されています。

●認知症の高齢者、知的障害を持つ人の支援をしています。今日のセミナーで「その人に合ったコミュニケーションを関係性を築きながらみつめていく」というお話は、すべてに通じると思いました。ありがとうございました。

➡「スロー」とは相手の事情を一步創造する「こころのゆとり」ということだそうです。

●実際に音の無い状況に置かれ、私たちは耳からたくさんの情報を得ていたのだと実感しました。情報が入らないことへの不安に今さらながら気付くことができ、聴覚障がいの方の苦勞が自分事になりました。幼児期の早い段階で適切な支援につなげることも大切です。

●是非ともこれからも活動を続けてください。いろいろ活動が広がっているようで頼もしいです。耳が聴こえない(その体験が難しいこともよくわかりました)無音の世界ではない方もおられることは聞いたことがあります。



➡大きなノイズが流れて、外部音が聞こえない状態で、ベテルギウス内を探検。聴覚障がいのある方の体験をほんの少しだけ知る。自然と手振りでなんとか伝えようとする。私たち(セミナー参加者)は、すぐに聞こえる(音のある社会)に戻れるが、聴覚障がいのある方は、その状態がずっと続く。そんな体験をほんの少しだけした。

那須さんのお話によると日本の難聴者数は推計で約1,430万人。全人口の11.3%に当たる。さらに聞き取りに不安を持っている人は3人に1人。「耳が遠い」といわれる加齢性難聴の方は、75歳以上の70%にのぼるそう。また、難聴の方は、聞こえないからと耳元で大声で話しかけられ

るのを屈辱と思うそう。やっと思いがちで、私の父は、混合性難聴という障がい者2級の手帳を持っていて、私が入前で大声で話さなければならぬことをしばらく恥ずかしく思っていたのですが、実際は逆であることを気づかされました。



トークセッション2の、2つ目のワークショップとして、「高ノイズを発生するヘッドフォンを交代で付けて、みんなで雑談『今日のお昼、何を食べましたか』、『好きな色は何ですか』と聞かれて、コミュニケーションから取り残される」体験研修。ホワイトボードに「お昼」って書いてあるけど、これがないと、何を聞かれているのかわからないので、答えようがない。すると人は、ニコッと笑ってやり過ごすものだという体験。普段人は笑っている相手を見て、伝わっているものとして流してしまっていることを再認識。

那須さんは、4Heartsの活動を多様な方々を巻き込みながら、協力してくれる人に負い目を感じてしまう当事者心理に気づいたという。また、現状では、コロナ禍によるマスクでコミュニケーションが取れないとか、八百屋や魚屋などで、「今日のお勧め」を聞きながら買いたいなど、困っている人の存在が認識されていない現状があるという。

障がいのある人の周囲にいる人が、今日のような体験を通して気づき、ジブンゴト化し、やってみようワクワク感を持つ。そしてバリアを感じている当事者は、自分の可能性を知り、「諦め」を「勇気」に変え、やってみようが生まれる。その両者の間に新しい「越境コミュニケーション」が生まれる(那須さんの講義資料より)

「よくここまで頑張ってくれましたね。立派な生き方だと深い感動を覚えました」とアンケートにありました。那須さんの奮闘にエールを送りつつ、多様な方々とつながる「越境コミュニケーション」を広めたいものです。



第101回の共育セミナーを2月18日(土)に久しぶりに会場参加のみで開催しました。コロナが3年を経過し、ようやく収束しようとする中、市民活動が人と人をつなぐ意味で、大きな役割を果たすことには変わりはない観点から、社会貢献活動に関わる多くの人々にエールを送り、一歩踏み出す勇気を持つ人を後押ししたいという趣旨で、このセミナーを継続開催しています。

今回は、一般社団法人4Hearts(ひと・まち・コミュニケーションデザイン)代表理事で、産業カウンセラーの那須かおりさんをゲストスピーカーに、津金(つがね)愛佳さんを手話通訳としてお招きして、9名の参加を得て開催しました。トークセッション1では、那須さんの個人ストーリー、体験談と聴覚障がい者(きこえない・きこえにくい人たち)の社会的ハンディキャップや心の問題といったさまざまな社会課題をお話いただきました。トークセッション2では、①「参加者が耳栓をした上で、かなり大きなノイズが流れて、外部音が聞こえなくなるという特別なヘッドフォンを装着して、ベテルギウス内を歩く」、②「そのヘッドフォンを交代で付けて、那須さん『今日のお昼、何を食べましたか』、『好きな色は何ですか』と聞かれて、どう答えるか」の2つの体験研修を行いました。

共育セミナーで、さまざまな障がい、障がい者をテーマにして開催したことはあったと思いますが、障がいのある当事者の方をお招きして開催したのは初めてなのかもしれません。

本紙面では、当日の様子を写真で紹介するのに加えて、当日参加された方のアンケートと(一社)4Heartsの活動理念と活動内容をご紹介します。

4歳のときに、生まれつき聞こえないとわかり、人工内耳手術をされている那須さんは、今回初めて、個人ストーリーを語るためのパワーポイントを作成されたそう。辛い体験談を、でも前向きに語っていただいた那須さん、そして、参加者がマスクをしているため、余計に話し言葉を理解しにくいために、手話通訳をしていただいた津金さん(4Hearts理事)に感謝。

スローコミュニケーションの大切さ、可能性を体感した1日になりました。

編集・文責:船越 英一 イラスト:望月 則男



4Heartsをけん引する両輪の那須さんと津金さん。茅ヶ崎駅南口からほど近いところのBARを借りて、一時、月3回のランチ営業をされていた。そこでの共通語は、「手話」。手話のできないぼくは肩身の狭い思いをした?そんなことはない?今は、その場所で不定期で居酒屋をやっているとか。皆さんも是非一度飲みにお出掛けを!

## 2月の 認定NPO法人いきいきフォーラム草の根大和

展示コーナー  
市民交流スペース内の「展示コーナー」では、個人・団体の活動の紹介や作品展を行うことができます。申込み方法については、大和市民活動センターまでお問い合わせください。

